

ネフローゼ症候群診療指針〔完全版〕刊行にあたって

ネフローゼ症候群は腎臓専門医にとっては最も馴染みのある言葉の1つである。しかしながらネフローゼ症候群の診断・治療は、必ずしも統一されておらず、これまでの経験に基づいて各施設で行われている。わが国において、ネフローゼ症候群の診断基準、治療効果判定基準が決められたのは約40年ほど前であるが、これまで日本腎臓学会としてネフローゼ症候群に対する治療プロトコルを十分に評価してきたわけではない。このたび、進行性腎障害に関する調査研究班（松尾清一班長）で、ネフローゼ症候群に関する診療指針をまとめられ、ここにネフローゼ症候群治療についての治療の標準化の第一歩がしるされた。これをまとめられた難治性ネフローゼ症候群分科会 今井圓裕会長および執筆者の先生方に敬意を表するとともに、作成の過程で多くの意見をいただいた先生方にお礼を申しあげたい。これまでのネフローゼ症候群の治療に関してのプロトコルは欧米からの提案がほとんどであり、また、日本腎臓学会としても有効性・安全性を十分に評価できてはいない。現在、ネフローゼ症候群の症例を豊富にもつ中国をはじめ多くのアジア諸国で、活発に臨床試験が行われており、アジアから新しい治療プロトコルが提案される日も近い。わが国からも有効で安全な治療プロトコルを提案すべきときにきている。この診療指針に記された、新しい診断基準、治療効果判定基準に基づいて、標準治療を超える新しい治療プロトコルが提案され、ネフローゼ症候群の予後が改善することを期待する。

2012年3月

日本腎臓学会
理事長 榎野 博史